

平成 24 年度 CPD 協議会総会議事録

日 時：平成 24 年 7 月 5 日(木)15：00~17：00

場 所：公益社団法人 土木学会 講堂

出席者：協議会長 広崎 膨太郎（日本工学会副会長、NEC）

協議会副会長 橋谷 元由（化学工学会）

会員代表 半田 務(空気調和・衛生工学会) 奥津良之(計測自動制御学会)

岡部 進(資源・素材学会) 笹倉 剛(地盤工学会)

児玉公信(情報処理学会) 野口昭治(精密工学会)

児玉孝亮(電気学会) 鈴木忠道(電子情報通信学会)

森山一之(建築学会) 剣持庸一(日本工学教育協会)

岡田 博(日本マシエン지니어リング学会) 盛山保雄(日本技術士会)

石川善信(プレストコンクリート工学会)

運営会議委員（会員代表との重複を除く。）

関田真澄（冷凍空調学会）、 川島 一彦（東京工業大学）

事務局 四戸靖郷

配布資料：

1. H24 CPD 協議会総会出席委員一覧
2. 平成 23 年度 CPD-WG 事業報告
3. 平成 24 年度 CPD-WG 事業計画
4. 平成 23 年度 ECE-WG 事業報告
5. 平成 23 年度 ECE-WG 事業計画
6. 平成 23 年度 CPD 協議会講演会実施報告
7. 平成 23 年度 CPD 協議会会計決算報告書
8. 平成 23 年度日本工学会 CPD 公開講演会実施報告
9. 平成 23 年度 CPD 協議会 諸会議開催記録
10. 平成 23 年度 CPD 協議会 入退会報告
11. 日本工学会 CPD 協議会規定

広崎会長挨拶

CPD 協議会は地道に活動を続け、進捗している。

CPD-WG は、ポータルサイトを立ち上げ、横断的に CPD プログラムを見ることができるようにした。人材育成に効果が上がることを期待している。

ECE-WG は、「ナノエレクトロニクス ECE プログラム」に続き、「先端計測ナノ物質プログラム」の実施を支援した。このような高度な内容の教育をこれからも実施したい。

日本がさらに発展するための基本は人材であり、人材の育成には時間がかかるが、CPD 協会の活動は地道ではあるが、着実に効果を上げていきたいと考えているので、会員の皆様にご協力をお願い申し上げたい。

議案および質疑：

1. CPD-WG 平成 23 年度事業報告および平成 24 年度事業計画(CPD-WG 関田主査)

配布資料 2, 3 に基づいて、次の内容が報告された。

(1) 平成 23 年度事業報告

ポータルサイトは平成 23 年 6 月に本稼働した。6 か月間の不具合については瑕疵担保期間中であり無償で修正してもらった。その後、発注時の仕様になかった表形式、キーワードの修正については、新たに発注し、修正した。

会員に配布した「CPD ガイドライン」に関し、ガイドラインの活用を促進するためにアンケート調査を実施した。この結果を平成 24 年 2 月開催の「CPD 公開講演会」で発表した。

(2) 平成 24 年度事業計画

本年度は次の項目を重点的に行う。

- 1) 学協会における CPD プログラム開発および質の向上への支援
- 2) ポータルサイトも利用促進
- 3) ポータルサイト掲載イベント数のアンバランス対策

質疑：

- ・ 1)に関してはもう少し具体化して欲しい。
- ー 企業の OJT が機能しにくくなっているのので、それを補足する意味で学協会の CPD プログラムの役割が重要になってきている。そのため、学協会の CPD プログラムの充実が必要であり、それを支援することを行いたい。
- ・ CPD と ECE の違いを明確にすることが必要である。また、CPD がうまくいかないところに ECE の考え方を導入する必要がある。
- ・ 3)について、学協会に CPD プログラムの掲載を HTML 化するよう要請するにしても、これらの作業のロードマップが必要である。また、Up-Load のルールを決めて学協会に提案することが必要である。

2. ECE-WG 平成 23 年度事業報告および平成 24 年度事業計画 (ECE-WG 川島主査)

資料 4, 5 に基づいて次に内容が報告された。

(1) 平成 23 年度事業報告

「ナノエレクトロニクス ECE プログラム」は産総研と共催で実施し、2 名の講師を派遣した。参加者から「いい経験になった」「いままで使用したことがない機器を使用できた」との大変良い評価が得られた。

(独) 物質・材料研究機構 (NIMS) で実施した「先端計測とナノ物質プログラム」については ECE プログラムとして認定した。成績が 60 点以上(12 名)には NIMS の修了証を、80 点以上(5 名)には ECE プログラムの修了証を授与した。

(2) 平成 24 年度事業計画

本年度は次の項目を重点的に行う。

1) ECE プログラムの実施

「ナノエレクトロニクス ECE プログラム」「環境とエネルギー材料 ECE プログラム」の 2 つを推進する。

2) ECE プログラムの普及のためのポスター作製

技術者に対する ECE プログラムの PR ポスターを 50 枚製作した。CPD 協議会傘下の学協会に配布し、PR して戴く。

3) 学会主体の ECE プログラム開発を目指した ECE プログラムの在り方検討

今までの ECE プログラムは独立行政法人が主体となって実施したものであり、当初の複数の学会が担い手になるプログラムは提案できていない。次のステップに移行するために何をすべきか検討する。

質疑：

- ・ 計測自動制御学会には 1 年がかりの通信講座があり、これはプロセス制御の技術者を手塩にかけて育成するプログラムである。この講座を ECE プログラムとして認定して戴けないか。
- ECE プログラムとしては、担当する委員会に企業出身の委員が入っているか、企業のニーズを取り入れているか、修了の認定をどうしているか、受講者に発表させているか、などの要件が必要である。
- ・ 従来、ECE プログラムは国研とともに実施してきたが、学会と連携して行うためには、認定基準を決める必要がある。また、国際的に認知させる必要があるので、WECC2015 でもアピールする必要がある(会長)
- ECE プログラムはまだ 2 つしかなく、もう少し実績を積んでから国際的にアピールする必要がある。むしろ、国内のアピールをする方が先である。
- ・ 国内のアピールは経団連の産業技術委員会が適当であり、そちらに話をすることを検討する(会長)

3. 平成 23 年度 CPD 協議会講演会実施報告

配布資料 6. に基づき、橋谷が報告した。

質疑：

- ・ 講演会の対象は一般・学生まで広げているが、実際の危機に来るのは CPD 協議会の関係者だけであり、参加者も多くない。したがって建築会館のホールを借りる必要がないのではないか。WG の実施報告も講演会と総会とで重複するので、一

緒に実施することを検討してほしい。

― 確かに、場所については検討する必要がある。総会との同時開催については時期との関連も含めて検討する。

4. 平成 23 年度決算報告および平成 24 年度予算計画

配布資料 7, 8 に基づいて、事務局長から報告された。

質疑：

- ・ CPD 講演会資料の「会計報告」の数字が平成 23 年度正味財産増減計算書のどれにあたるのか明示してほしい。
- ― 事務局長から詳細を説明した。
- ・ 会費収入が 175 万円に対し、CPD 協議会への配賦だけで 210 万円になっている。これに事業費を加えると毎年 100 万円の赤字になる。これでは積立金は 5 年で食いつぶしてしまう。6 年目には解散となる。これで良いのか。
- ― この問題については、日本工学会としての問題でもあり、今後協議していく必要がある。まずは運営委員会を開き協議を行う。
- ・ CPD 協議会の決算は、日本工学会の会計監査も済んで、日本工学会の総会でも承認されてはいるが、CPD 協議会には日本工学会の会員ではない学協会も含まれている。CPD 協議会としての承認も必要ではないのか。平成 23 年度は CPD 協議会運営会議が 1 度しか開かれていない。運営会議で決算を承認する必要がある。
- ― これは Governance の問題であり、早急に整理する。

5. 報告事項

配布資料 9、10 に基づき、CPD 協議会 諸会議に開催状況および平成 23 年度の協議会入退会について退会が 1 件あり、現在 31 会員(団体)であると報告された。

以上、報告、審議を終え、本協議会総会を閉会した。

以 上